

自由律俳句

おおくさ編集室選

シエフの愛嬌どんぶり茶碗で宇治ミル金 茶屋 藤原 寿郎
 何時迄も年とらぬ逝った児の今日命日 下阿毘縁 高木 功
 花がすきだった人五月が咲いています 生山 弓場 里恵
 空いっぱい星不思議な心になっている 茶屋 長谷川由美子
 思い出を秘めてうつむく童袋の白 生山 渡辺 圭子
 枝豆蒔いた孫の笑顔が浮かぶ 印賀 久代 幹子
 新緑の香りに包まれ石造めぐり 神戸上 柴田 篤子
 浮き上がる雲 梅雨の晴れ間から夏風が吹く 茶屋 岸本 治枝
 滅多に会えない蟪蛄ひまがねのつそりと梅雨湿り 茶屋 木山 操子
 芍薬の人思う日蝶を誘って会いに行 茶屋 小林 道子

俳句
 すじ雲の一点虹に光りけり 三吉 伊田力ネ子
 新緑を仰ぎて今日の食事を 神戸上 笹間 玲子
 天の川星取県の名に恥じず 宮内 田辺登志美
 音もなく水輪みづわとなりし落花かな 河上 長崎美佐子
 自みづからが栄養士なり夏の朝 豊栄 花倉美佐子
 足元いもに守宮一瞬姿消きゆ 宮内 木村萬佐子

川柳

鈴の音川柳会選

「夏草」
 夏草の息吹に老いの背を押され 宮内 高見 吟威
 夏草のようにぐんぐん伸びたいね 折渡 貝谷日出代
 夏草の元氣すそわけしてほしい 霞 久城 英代
 夏草を刈って背負った昭和の日 三吉 伊田須奈子
 夏草の中にほんのり月見草 豊栄 上原ゆみ子
 夏草はごめんなさいね汗だくだく 矢戸 沢田かね子
 夏草よ暑さに負けずよく生えた 印賀 山脇 文子

短歌
 徒然に心のエッセイ夢枕 下石見 浅川 三郎
 忘れぬ内にノートに刻む
 免許証返すか否か悩む友 河上 長崎美佐子
 事なき前の焦りと未練
 朝露にきらめく紫陽花峡の道 宝谷 横谷 秀子
 彩り映ゆる「デイ」の車窓に
 青若葉色濃くなりて風揺する 阿毘縁 木村 民子
 遙か深山の郭公の声
 幼なさの残る笑顔で手を振りて 霞 岸 尚子
 友好の旅へ孫は飛び発つ

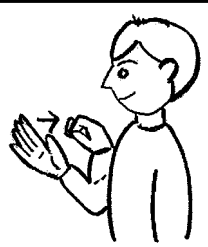
「手話教室のお知らせ」

9月の日程

日南町手話サークルでは、手話教室を開催しています。
 手話が初心者の方でも安心です。おしゃべりをしながら、日常生活の中の簡単な手話表現を学習しています。
 手話に興味のある方は、一緒に学習してみませんか？

9月9日(日)
 時間 14時～15時30分
 場所 文化センター
 【お問い合わせ先】
 石田由香里(080030529933)
 浅野 博美(090097341887)

「手話表現には、色々な表現方法があります。」



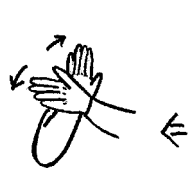
「取る」

何かをつかみ取る様子
右手を握りながら手前に引く。



「鳥」

鳥のクチバシの様子
右手の親指と人差し指を口元におき、1回開いて閉じる。



両手を互い違いに
ずらす。



「県」

顔の横で両手の手の
ひらを合わせる。

